令和6年度 技術移転に係わる目利き人材育成プログラム　「バリュープロデュースコース」 タイムテーブル

バリュープロデュースコース

（注）講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

研修会場　：　科学技術振興機構　東京本部別館 2F会議室A　（東京都千代田区五番町7　K's五番町）HP：https://www.jst.go.jp/koutsu.html
定員　：　30名
開催期間　：　令和6年7月24日（水）・25日（木）
（講師名：敬称略）

課程・講師名	日程	会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
			9:15	9:40	10:00	11:00	11:10	12:10	13:00	14:30	17:00
第1回 産学官連携の全体俯瞰と 研究成果の選別・評価 【開講挨拶】 小長谷 幸 科学技術振興機構 人財部 科学技術イノベーション人材育成室 室長 【講師】 各務 茂夫 東京大学 大学院工学系研究科 教授 産学協創推進本部 副本部長 一般社団法人日本ベンチャー学会 会長 尾谷 敬造 神奈川大学 研究推進部 産学官連携課 産学官連携コーディネーター ※グループ討議担当講師 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 西片 奈保子 宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 特別助教・産学官連携コーディネーター 久納 弘幸 株式会社AIST Solutions （産総研グループ） コーディネート事業本部　連携企画部 亀上 知世子 電気通信大学 情報理工学研究科 産学官連携研究員 リバスティ　代表 新東亜交易株式会社健康産業部　技術顧問 出田 光太郎 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA	7/24 （水）	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受付	主催者 開講挨拶 趣旨説明・注意事項	［講義①］ 産学官連携活動の 全体俯瞰 東京大学 各務 茂夫 産学官連携の実務者が学ぶべき視点を把握する。また、グローバル化が進む中で、世界を取り巻く情勢を踏まえ、それぞれの地域でイノベーション創出に向けた活動展開が期待される目利き人材の要件について学び、産学官連携を全体俯瞰する。	休憩	［講義②］ 研究者ヒアリング 研修で取り扱う 技術シーズ提供者 本コースで具体的に検討を進める技術シーズをご提供いただいた研究者へのヒアリングを行う。ヒアリング内容をグループ討議に反映し、社会実装へのシナリオ構築へと進める。	昼食休憩	［講義③］ 研究成果の選別・評価 神奈川大学 尾谷 敬造 研究成果から事業化展開を進めるためには、研究成果の技術面や研究者の人物面を把握し、事業化へ向かうための研究成果の選別・評価を行うことが重要である。研究成果の選別・評価の実践的手法のひとつである「トリアージ法」を用いて、抜け漏れなく同一視点で研究成果を横並びに評価し、選別する工程や検討のポイントを具体的に学ぶ。	［グループ討議］ 研究成果の選別・評価 （鈴木・西片・久納・亀上・出田） グループ討議 事前課題や講義を踏まえ、技術シーズの事業化の可能性について評価・検討を行う。また、研究者ヒアリングで得た、研究者や技術シーズの背景についてもグループ内で意見交換し、事業化に向けて、今後どのように研究成果を進展させるべきか活動方針を決める。	振り返りシート記入・解散

課程・講師名	日程	会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
			9:15	9:30		12:00	13:00		14:30		16:30
第2回 事業化へのロードマッピング 【講師】 木下 裕介 東京大学 大学院工学系研究科　准教授 ※グループ討議担当講師 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 西片 奈保子 宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 特別助教・産学官連携コーディネーター 久納 弘幸 株式会社AIST Solutions （産総研グループ） コーディネート事業本部　連携企画部 亀上 知世子 電気通信大学 情報理工学研究科 産学官連携研究員 リバスティ　代表 新東亜交易株式会社健康産業部　技術顧問 出田 光太郎 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA	7/25 （木）	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受付	［グループ討議・発表］ 研究成果の選別・評価と ロードマッピング （鈴木・西片・久納・亀上・出田） グループ討議 第1回に引き続き、事前課題や講義を踏まえ、技術シーズの事業化の可能性について評価・検討を行う。また、事前課題で検討した結果からロードマッピングを実践し、社会実装までのプロセスや課題点などを抽出する。	昼食休憩	［講義］ 事業プランニングのための ロードマッピング 東京大学 木下 裕介 将来ビジョンと現在を繋ぐための道筋を設計するロードマッピングを学ぶ。戦略やシナリオを検討する際のロードマッピングの有効性や戦略立案のためのポイントを押さえ、午前中のグループ討議で実践したロードマッピングの疑問点を解消する。	［グループ討議］ 研究成果の選別・評価と ロードマッピング （鈴木・西片・久納・亀上・出田） グループ討議 講義を受けて、事業化へ向けたロードマッピングの結果について修正と検討を行う。実務上の課題やさらなる検討が必要な項目を抽出し、事業化への糸口を探る。 グループ発表 グループ討議で取りまとめた結果をグループごとに発表する。各グループが行ったトリアージとロードマッピングの結果を見ながら、各グループの幅広いアイデアを共有する。	振り返りシート記入・解散

令和6年度 技術移転に係わる目利き人材育成プログラム　「バリュープロデュースコース」 タイムテーブル

バリュープロデュースコース

（注）講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

研修会場　：　科学技術振興機構　東京本部別館2F 会議室A　（東京都千代田区五番町7　K's五番町）HP：https://www.jst.go.jp/koutsu.html
定員　：　30名
開催期間　：　令和6年10月9日（水）・10日（木）

（講師名：敬称略）

課程・講師名	日程	会場	9:15	9:45	10:00	11:30	12:00	13:00	16:00	17:00
第3回 研究成果の付加価値の創出 【講師】 鈴木 剛一郎 イノベーションマネジメントコンサルティング 経営コンサルタント ※グループ討議担当講師 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 西片 奈保子 宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 特別助教・産学官連携コーディネーター 久納 弘幸 株式会社AIST Solutions （産総研グループ） コーディネート事業本部　連携企画部 亀上 知世子 電気通信大学 情報理工学研究科 産学官連携研究員 リバスティ　代表 新東亜交易株式会社健康産業部　技術顧問 出田 光太郎 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA	10／9 （水）	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受付	趣旨説明・注意事項	［講義］ 実践的技術マーケティング手法 S-N変換法の活用 イノベーション マネジメントコンサルティング 鈴木 剛一郎 技術マーケティングの実践的手法である「S-N変換法」を学ぶ。従来になかった価値（機能・効能・効果）と未来の顧客を同定していくアプローチ手法を理解し、第三者が興味を引くような技術紹介のヒントを掴む。	［グループ討議］ S-N変換法を用いた 評価と研究成果の価値創出 鈴木 剛一郎 （鈴木（正）・西片・久納・亀上・出田） グループ討議 第1回で研究者ヒアリングをした技術シーズについて、S-N変換法を用いて、要素技術、機能・効能（できること）・用途・市場ニーズなどの関係について整理する。	昼食休憩	［グループ討議・発表］ S-N変換法を用いた 評価と研究成果の価値創出 鈴木 剛一郎 （鈴木（正）・西片・久納・亀上・出田） グループ討議 午前に続き、S-N変換法を用いて研究成果の価値創出について議論を深める。さらに、新たな価値の創出に向けた方向性について検討を行い、その結果を技術紹介シートにとりまとめる。 グループ発表 グループ討議でS-N変換を用いて実践し、とりまとめた結果をグループごとに発表し、とりまとめ結果を共有する。	振り返りシート記入・解散

課程・講師名	日程	会場	9:15	9:30	11:00	11:10	12:10	13:10	15:30	16:30
第4回 知財戦略の検討 【講師】 久保 浩三 奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 特任教授・名誉教授 増田 亜由美 大阪公立大学 産学官民共創推進本部 産学官民共創推進室 技術移転推進オフィス アソシエイト ※グループ討議担当講師 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 西片 奈保子 宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 特別助教・産学官連携コーディネーター 久納 弘幸 株式会社AIST Solutions （産総研グループ） コーディネート事業本部　連携企画部 亀上 知世子 電気通信大学 情報理工学研究科 産学官連携研究員 リバスティ　代表 新東亜交易株式会社健康産業部　技術顧問 出田 光太郎 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA	10／10 （木）	JST 東京本部 別館2F 会議室A	受付	［講義①］ 大学等における 知財の意義と戦略 奈良先端科学技術大学院大学 久保 浩三 大学等における知財の意義を学び、大学等の知財がどのように社会実装に関わっているかを知る。また、戦略的に権利化し活用することの価値とその具体的方法、国の施策や動向とともに、今後求められてくる知財・ノウハウ・標準化・データの複合戦略などを考える。	休憩	［講義②］ 成果導出に向けた 特許調査等のポイント 大阪公立大学 増田 亜由美 研究成果の導出に向けた知財戦略や出口戦略を検討する上で重要となる特許調査やパテントマップの作成を学ぶ。さらに、知財分析に関してコーディネータやURAに求められる知識とスキルについて理解を深める。	昼食休憩	［グループ討議・発表］ 知財戦略に向けたアプローチ （鈴木（正）・西片・久納・亀上・出田） グループ討議 第1回で研究者ヒアリングをした技術シーズを用いて、特許調査やパテントマップ作成による整理・分析を行う。知財の観点から今後の技術開発や事業化にあたっての課題を整理し、今後の方策をグループで検討してまとめる。 グループ発表 グループ討議でまとめた結果をグループごとに発表する。知財戦略を検討する上でのポイント等について、講師および受講者間で共有する。	振り返りシート記入・解散

令和6年度 技術移転に係わる目利き人材育成プログラム　「バリュープロデュースコース」タイムテーブル

バリュープロデュースコース

（注）講師およびカリキュラムにつきましては、都合により一部変更する場合があります。

研修会場　：　科学技術振興機構　東京本部別館2F 会議室A　（東京都千代田区五番町7　K's五番町）HP：https://www.jst.go.jp/koutsu.html
定員　：　30名
開催期間　：　令和6年12月11日（水）・12日（木）

（講師名：敬称略）

課程・講師名	日程	会場	9:00	9:15	9:45	10:00	11:00		11:10	12:40	13:40		17:00
第5回 事業化シナリオの策定① 【講師】 稲熊 律夫 RE-DesignLab 代表 慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート 特任教授 追而 ※グループ討議担当講師 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 西片 奈保子 宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 特別助教・産学官連携コーディネーター 久納 弘幸 株式会社AIST Solutions（産総研グループ） コーディネート事業本部　連携企画部 亀上 知世子 電気通信大学 情報理工学研究科 産学官連携研究員 リバスティ　代表 新東亜交易株式会社健康産業部　技術顧問 出田 光太郎 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA	12/11 (水)	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受付	趣旨説明・注意事項	［講義①］ 事業化シナリオの策定 RE-DesignLab 稲熊 律夫 研究成果を活用・応用した製品・サービスへの事業化シナリオに必要な項目（解決を図りたいペイン・課題や想定する顧客等）のポイントについて学ぶ。	休憩	［講義②］ 事業化シナリオの実践事例① 追而 大学の研究成果や技術を元に起業した大学発ベンチャーの事業計画や資金調達の歩みから、シナリオ作成や課題解決のポイントを学ぶ。	昼食休憩	［グループ討議・発表］ 事業化シナリオの策定 実践① 稲熊 律夫 （鈴木・西片・久納・亀上・出田） グループ討議：第1回グループ討議から検討を進めてきた技術シーズを用いて事業化へのシナリオを検討する。本技術を活用・応用した製品・サービスが提供する価値、想定する顧客とその数、競合する製品・サービス、ビジネススキームなどを整理する。 グループ発表：グループ討議でまとめた事業化シナリオについて、結果をグループごとに発表する。シナリオを作成する検討の過程を共有し、事業化へ向かうためのポイントを整理する。	振り返りシート記入・解散

課程・講師名	日程	会場	9:00	9:15	9:30	11:00		11:10	12:10	13:10	15:30	16:30
第6回 事業化シナリオの策定② 【講師】 三宅 徹 株式会社未来機械　代表取締役社長 ※グループ討議総括 稲熊 律夫 RE-DesignLab 代表 慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート 特任教授 ※グループ討議担当講師 鈴木 正人 浜松医科大学 研究協力課 西片 奈保子 宮崎大学 研究・産学地域連携推進機構 特別助教・産学官連携コーディネーター 久納 弘幸 株式会社AIST Solutions（産総研グループ） コーディネート事業本部　連携企画部 亀上 知世子 電気通信大学 情報理工学研究科 産学官連携研究員 リバスティ　代表 新東亜交易株式会社健康産業部　技術顧問 出田 光太郎 佐賀大学 リージョナル・イノベーションセンター シニアURA	12/12 (木)	JST 東京本部 別館2F 会議室A		受付	［講義］ 事業化シナリオの実践事例② ～事業戦略と海外進出のポイント～ 株式会社未来機械 三宅 徹 海外乾燥地域向けのソーラーパネル清掃ロボットの開発に乗り出し、自律型でハンディータイプのソーラーパネル清掃ロボットを世界で初めて実用化した株式会社未来機械。開発者であり、香川大学発ベンチャーとして創業し、当初の事業から方針転換して海外市場へと踏み出した戦略からシナリオ検討のポイントを学ぶ。	休憩	［グループ討議］ 事業化シナリオの策定 実践② 稲熊 律夫 （鈴木・西片・久納・亀上・出田） グループ討議：第5回の検討を踏まえ、事業化に向けての課題やリスク等の整理と、今後取り組むべき技術開発や知財戦略等を考える。	昼食休憩	［グループ討議・発表］ 事業化シナリオの策定 実践② 稲熊 律夫 （鈴木・西片・久納・亀上・出田） グループ討議：午前に続き、事業化シナリオ策定に向けて議論を深める。第1回から様々な分析ツールを用いて検討してきた技術シーズについて、研究者や関係者に提案する形の事業化シナリオとして取りまとめる。 グループ発表：完成したシナリオについて、技術シーズの提供者である研究者にプレゼンするつもりでグループごとに発表する。	修了証授与 振り返りシート記入・解散